

早期良質茎の確保に向け、栽培管理を徹底しよう！

1 稲の生育状況と今後の管理

(1) 稲の生育状況

- 管内の田植始期は5月9日頃、最盛期は5月16日頃となり、ほぼ平年並となりました。
- 田植期間及び田植後は温暖な日が多く、活着・初期生育は概ね順調に経過しています。

(2) 今夏予想される天候と今後の管理のポイント

- 気象庁のエルニーニョ監視速報(5月10日発表)では、今後夏にかけエルニーニョ現象が続く可能性が高いと発表されています。エルニーニョ現象が発生しているときは、夏期の気温が低く日照時間が少ない傾向にあり、水稻栽培では夏期の生育停滞等が懸念されます。
- このため、今年は特に早期に茎数を確保し、的確な生育調節(中干し)により適正なもみ数に生育を制御し、登熟を確保することが重要となります。

(3) 早期に茎数を確保するための水管理

- 活着後は水温を上昇させるため水深2～3cmの浅水管理とし、分げつの発生を促しましょう。
- 低温や風の強い日はやや深水管理にし、田面が出ないように湛水を徹底しましょう。
- ワキの発生が多いほ場では夜間落水を行い、根腐れ・生育停滞を防止しましょう。

2 中干し・溝切りの実施方法

(1) 主な効果

- ◇ 過剰生育抑制による適正生育量の確保
- ◇ 下位節間の伸長を抑え、倒伏を軽減
- ◇ 土壌への酸素供給による根の健全化
- ◇ 収穫作業に向けた地耐力の確保
- ◇ 溝の設置により迅速なかん水・落水が可能



適正なもみ数確保 (=品質の確保) につながる！！

(2) 実施時期 ～ 田植後25日をめやすに生育を確認し、遅れないよう中干しを開始 ～

- 目標穂数の7～8割の茎数(生育過剰ほ場は6～7割)を確保したら落水し、中干しを開始してください。
- 本格的に梅雨入りすると中干し効果が劣ります。極端に分げつの発生が遅れていなければ、早めでも中干しを開始しましょう。

表 コシヒカリの中干し開始のめやす

地域	1株当たり茎数のめやす(本/株)			目標穂数 (本/m ²)	開始時期 のめやす
	50株植え	60株植え	70株植え		
平地	18	15	—	360	6月10日頃
中山間地	—	14	12	320	6月15日頃



【田面に小ヒビが入った状態】

(3) 実施方法

〈中干し〉

- 程度：田面に小さなヒビ(幅1cm程度)が入り、軽く足跡がつく程度までしっかり干します。
- 終了時期：出穂1か月前(早生は6月下旬、コシヒカリは7月5日頃)をめどに終了します。

〈溝切り〉

- 溝の間隔：8～10条おき(間隔は2.5m程度)
- 溝の深さ：10cm以上とし各溝の末端を排水口につなげます。



【溝の末端を排水口に接続した状態】

3 中干し・溝切り後の栽培管理

(1) 水管理

- 中干し終了後は、うわ根の発根促進や根の健全化のため湛水状態を維持せず、浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行します。

(2) 病虫害防除

- いもち病多発地及び前年発生ほ場のコシヒカリ BL や、業務用米・飼料用米等の多収性品種などで田植時に予防剤を施用していない場合は、6月中旬までに本田に予防剤を散布してください。
- 農道・畦畔などがカメムシ類の生息地となるので草刈りを徹底しましょう。